#275

フウラン

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

Neofinetia falcata

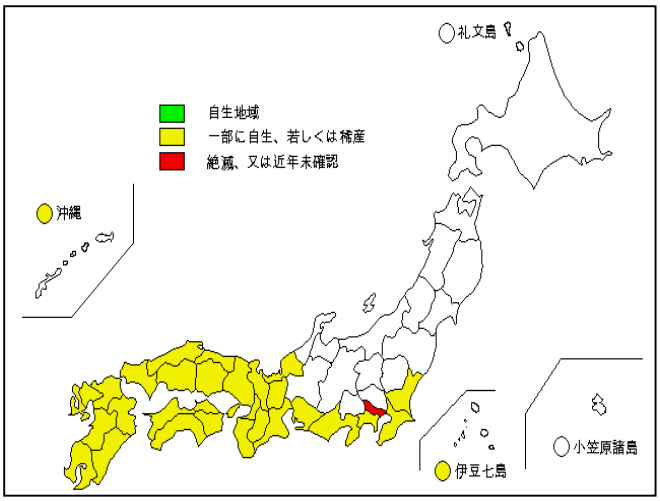
びわの木に着生するフウラン(愛知県奥三河　09.7/11)

関東地方以南に自生する着生蘭で、シュンラン、セッコク、ウチョウランなどと並び日本を代表する野生蘭の一つです。比較的大型で、杉やヒノキ、カヤなどのかなり高い場所や、渓流沿いの岸壁などにこぶし大の塊を作り着生します。常緑で、葉は肉厚で剣のように鋭く、初夏に咲く純白の花は強い芳香があり、花、香り、草姿と三拍子揃った非常に観賞価値の高い蘭です。

このためかなり古くから好んで栽培されており、斑入りや変わり花などの突然変異株が「富貴蘭」として重宝されています。

自生地では切り立った岸壁の高い場所にセッコクやムギラン、イワヒバ、ウチョウランなどと混生するケースが多いです。かなり乾燥気味な場所にも希に見られます。また、木に着生する場合にはかなりの大木を好み、神社の境内にある「樹齢〇百年」というような御神木のはるか上空に着生していることもしばしばあります。

しかし現在ではどの自生地も壊滅的な状況にあります。



寒冷地を除く全国の山地に自生します。

松の枝に着生する大塊(愛知県奥三河09.7/11)

観賞価値が極めて高い蘭だけに各地で無謀な盗掘が繰り返され、分布範囲は広いにもかかわらず今ではまず自生の姿に出会うことは出来ません。

宮崎や鹿児島など九州南部ではまだ若干の自生は見られるようですが、現在においてもなお業者による盗掘が後を絶たず、堂々と「山取り」と称して販売されているのを見ると心が痛みます。

ただ、幸いにも無菌培養による実生増殖が確立されマーケット化されておりますので、一昔前のようなお金目当ての狂気じみた盗掘者は激減しているようです。

但し、今でも人間の生活環境拡大により道路建設やダム建設の犠牲で年々人知れず消滅していく自生地も多く、自治体がこの危機的状況を理解し現存する自生地を早急に保全することが最も急がれる課題です。

Document and photo by LittleFlower 2009

無菌培養による商用生産が盛んに行われている為入手は容易です。ホームセンターでも1000円程度で購入できます。但し販売されている「並花」と呼ばれるものは、富貴蘭栽培における選別漏れの固体ですので、いわゆる「自生種」ではありません。選別固体の富貴蘭の中には一鉢何百万で取引されている固体もあります。

栽培は容易です。半木陰で十分な湿度と通風、それと冬期の冷害さえ注意してあげればほうっておいても元気に育ってくれます。

暖地なら庭木に着生させても良し、ご自宅に日本庭園があれば大岩に着生させても良し、ヘゴ板、コルク板に着生させ吊るして監視しても良し、蘭鉢にミズゴケで山植えにしても良し、と植え方は様々です。なるべく根が空気中にはみ出すように小さめの鉢に植え込んでやると成長が良好です。

増殖は株分け、実生です。株は根元から脇芽が出て、だんだん塊状になってきますので、それを春先に分割してやります。実生は無菌培養か親株の根元に直播ですが、成

花のアップ(愛知県奥三河09.7/11)

松の枝に着生する大塊(愛知県奥三河09.7/11)

松の枝に着生する実生株(愛知県奥三河09.7/11)

松の枝に着生する大塊(愛知県奥三河09.7/11)

Document and photo by LittleFlower 2009